

No.	指定	名称	年代	所蔵	所在地
1		文殊山採集遺物	縄文～平安時代	楞嚴寺	福井市大村町
2		玉作り関係遺物 糞置遺跡出土	弥生時代	福井県教育庁埋蔵文化財調査センター	
3		管玉 太田山古墳群出土	弥生時代	福井県教育庁埋蔵文化財調査センター	
4		鉄剣・管玉 二上・半田古墳群出土	古墳時代	福井県教育庁埋蔵文化財調査センター	
5		須恵器蔵骨器 文殊山麓出土	平安時代	当館蔵	
6		越前国足羽郡糞置村開田図(複製)	天平神護2年(766)	原本:正倉院宝物	
7		越前国内神明帳(写真)	明治31年書写	原本:石川県立図書館	
8	県	木造 僧形坐像(伝泰澄大師像)	平安時代	泰澄寺	当館保管
9	県	木造 十一面観音立像	平安時代	猿田彦神社	福井市冬野町
10	市	木造 多聞天像	平安時代	二上町	当館保管
11	市	木造 広目天像	平安時代	二上町	当館保管
12		東寺修造料足越前国寺々奉加状(写真)	文安2年(1445)	原本:京都府立京都市・歴彩館	
13		越前国名蹟考	江戸時代	当館蔵	
14		越前国之図(写真)	貞享2年(1685)	原本:松平文庫	福井県文書館保管
15		木造 文殊菩薩坐像	平安時代	楞嚴寺	福井市大村町
16		木造 文殊菩薩坐像	江戸時代	楞嚴寺	福井市大村町
17		木造 十一面観音坐像	鎌倉時代	楞嚴寺	福井市大村町
18		木造 薬師如来坐像	鎌倉時代	楞嚴寺	福井市大村町
19		木造 阿弥陀如来坐像	南北朝時代	楞嚴寺	福井市大村町
20	県	木造 弘法大師坐像	鎌倉時代	楞嚴寺	福井市大村町
21	市	木造 女神坐像	鎌倉時代	白山神社	福井市上河北町
22		木造 僧形神坐像	鎌倉時代	白山神社	福井市上河北町
23		木造 男神坐像	鎌倉時代	白山神社	福井市上河北町
24		木造 男神坐像	鎌倉時代	白山神社	福井市上河北町
25		木造 阿弥陀如来立像	江戸時代	白山神社	福井市上河北町
26		木造 毘沙門天立像	江戸時代	白山神社	福井市上河北町
27	市	木造 十一面観音坐像	鎌倉時代	片上神社	鯖江市南井町
28	市	木造 阿弥陀如来坐像	鎌倉時代	片上神社	鯖江市南井町
29	市	木造 聖観音坐像	鎌倉時代	片上神社	鯖江市南井町

同時開催中の展示
 夏季特別陳列②
まぼろしの鉄道～東北鉄道と明治の福井～
 1階 松平家史料展示室

展示解説シートNo.160 令和5年7月27日発行
福井市立郷土歴史博物館
 福井市宝永3-12-1 電話 0776-21-0489
 担当:藤川明宏
 印刷:白崎印刷株式会社

令和5年夏季特別陳列①

福井の里山
 もんじゅさん
文殊山ゆかりの神仏

- 会場 2階 企画展示室
- 会期 令和5年7月27日(木)～9月3日(日)

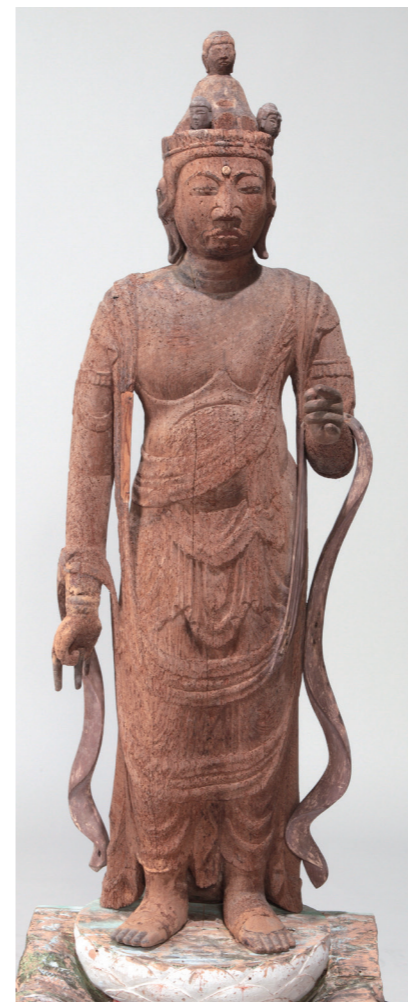
近年は気軽にハイキングが楽しめる里山として多くの人に親しまれている文殊山。一方文殊山は、奈良時代の名僧・泰澄が開いたとされる「越前五山」の一つに数えられる霊山であり、その山麓には文殊山信仰の拠点である楞嚴寺をはじめ、数多くの密教寺院が栄えていたと伝わります。本展では、文殊山ゆかりの仏像を中心に展示し、文殊山の深遠な歴史と信仰を紐解きます。



福井市太田町から望む文殊山

第1章 「二上」の山への信仰

文殊山の標高は365m。里山として親しまれているように、高い山ではありませんが、泰澄大師によって開かれたという「越前五山」に数えられる霊山として、古くから崇敬されてきました。



福井県指定文化財 木造 十一面観音立像
 平安時代 猿田彦神社
 写真提供:福井県立歴史博物館

文殊山は南北に延びる連峰で、「大文殊」と「奥之院」の二つの山頂がフタコブラクダの背のように見える「二上」の山です。このような「二上」の山は、富士山のような三角錐の山とともに、山容が秀麗な神体山として崇められ、奈良県と大阪府に跨る二上山は、その最も有名なものとして知られます。そして文殊山も、元々は「二上山」と呼ばれていたかもしれません。その根拠の一つが、越前国の国司が作成した管内の神名と神階を記した「越前国内神名帳」にあります。中世以前の神名を知ることができるこの神名帳の足羽郡の項に、正一位「二上大明神」が挙げられているのですが、高い神階を誇るこの二上大明神こそが、文殊山に鎮座するそもそもの神の名であり、山の名もまた「二上山」だった時代があったのではないかと、そんな可能性を考えています。

また現在も「二上」の名を遺す福井市二上町には、県内屈指の仏像である十一面観音立像が観音堂に安置されています。平安前期、9世紀末頃の作と考えられるこの観音像が、元々どのような寺院に祀られていたのかは定かではありませんが、二上大明神の神宮寺のような寺院であれば、それに相応しいかもしれません。二上町は東大寺領荘園糞置荘の荘域に接する地域でもあり、東大寺に関わる中央の官僧や仏工が仏像制作に関わった可能性もあります。

そして、二上町の十一面観音像とともに注目されるのが、同じく平安時代の古様な姿を表わす福井市冬野町猿田彦神社の十一面観音像です。この二つの観音像は、古来の幹線道路である北陸道の東西にそびえる文殊山と城山に祀られ、北陸道や旧麻生津川を用いた交通・舟運を守護する役目を負ったと推察されます。また流通によってもたらされる疫病等の災禍を防除するため、足羽郡と丹生郡・今立郡の郡境を結界する役割もあったものと考えられます。平安時代よりこの地を守護・結界してきた霊験ある観音像が、今なお地域で信仰されていることは、大変貴重なことと思われます。

第2章 「文殊の本寺」楞嚴寺の歴史と仏像



木造 文殊菩薩坐像 平安時代 楞嚴寺

五台山を参詣し帰国したのが10世紀後半で、これ以降、平安後期から鎌倉時代にかけて、日本国内で文殊信仰が高まっていきます。楞嚴寺本尊の文殊菩薩像が平安後期の作であることを併せて考えると、この頃に「文殊山」と呼ばれるようになったのではないかと考えられます。

さて、この文殊山一山を統括してきたのが「文殊の本寺」と呼ばれた楞嚴寺（高野山真言宗、福井市大村町）です。幾度かの災禍で古文書を失っており、その歴史ははっきりしませんが、「東寺百合文書」に残る文安2年（1445）9月の記録に、京都・東寺（教王護国寺）の諸堂修理の勧進に応じた越前国の寺院として「楞嚴寺 十人 壹貫文」が挙がっており、室町時代には、10名の僧侶が修行する真言宗系寺院だったことがわかります。また江戸時代の地誌『越前国名蹟考』には「養老元年泰澄開基、朝倉家鎮国の時迄十六坊之有り。其後一揆の為に破壊。」「東の麓大村に本堂薬師阿弥陀十一面観音二王等有り。上ノ坊高台山宝珠院、下ノ坊成就院、此の両寺一山の支配也。」とあり、楞嚴寺は養老元年（717）、泰澄大師開基と伝え、越前朝倉氏治世の時代には十六坊あったが、一向一揆により破壊されたこと、本堂（講堂）には薬師如来・阿弥陀如来・十一面観音（今回出展の仏像）、そして二王像（寛政年間に焼失）を祀っていたこと、宝珠院と成就院の二つの子院が文殊山を支配していたことが記されています。また薬師・阿弥陀・十一面の三尊は「相州鎌倉より来臨」とも書かれており、興味深い所です。

明治3年（1870）、大村の大火で成就院が焼失し、荒廃が続く時期もあったようですが、楞嚴寺は現在も本尊文殊菩薩像や県指定文化財の弘法大師像など多数の仏像を安置し、文殊山の法灯を守っています。



「越前国図」より文殊の周辺部分 貞享2年(1685) 松平文庫 福井県文書館保管

いつの時代から「文殊山」（江戸時代の記録等では「文殊山」）と呼ばれるようになったのかはわかりませんが、江戸中期に書かれた越前国の地誌『帰鷹記』には、「此の嶽の児文珠は、齋藤何某吉信と云う人安置せられしとなり。円融院の御宇に此国の押領使也。」と記されており、この山に文殊菩薩像を安置したのは、越前齋藤氏の祖である齋藤吉信であったとしています。齋藤吉信については、平安時代の史料に名前や活動が見られず、どのような人物であったか不詳ですが、中世の越前において齋藤氏は絶大な力を有しており、平泉寺や豊原寺といった白山信仰の拠点寺院のトップを、齋藤氏出身の僧侶が歴任したことが知られています。その中で、齋藤氏の祖が文殊菩薩像を安置したという話が残るのは興味深く、中世には白山信仰のネットワークに組み込まれていったと思われる文殊山の、重層的な信仰の様相を表したものとして注目されます。また著名な入宋僧裔然が文殊菩薩の聖地であ

第3章 白山信仰と文殊山

泰澄大師が開いたという霊山「越前五山」の一つに数えられる文殊山。泰澄出生の地・麻生津にも面したこの山では、中世には白山信仰と文殊山信仰の混交が進んだものとみられます。白山三所権現の本地仏は、十一面観音（御前峰）、阿弥陀如来（大汝峰）、聖観音（別山）ですが、文殊山の本地仏は、『越前国名蹟考』によると、文殊菩薩（本山・大文殊）、阿弥陀如来（大汝・奥之院）、聖観音（別山・小文殊）となっており、主尊の十一面観音と文殊菩薩が入れ替わった以外は共通の二尊が配置されています。この三尊形式がいつまで遡るのかは定かではないですが、白山信仰の影響を受けたのは間違いないものと思われます。



木造 男神坐像・女神坐像（福井市指定文化財）・僧形神坐像

鎌倉時代 白山神社

写真提供：福井県立歴史博物館

次に鯖江市南井町の片上神社に祀られる十一面観音坐像、阿弥陀如来坐像、聖観音坐像は、白山三所権現の本地仏を表しています。三所権現本地仏としては越知山大谷寺の三尊がよく知られていますが、片上神社の三尊も鎌倉時代の優品として貴重な作例です。

なお、文殊山の山麓には古来いくつもの社寺が栄えていたと考えられ、その証拠として現在も多くの平安・鎌倉時代の仏像が遺されています。今回出展されているもののほかにも、福井市帆谷町の薬師如来坐像（福井市指定文化財）、福井市北山町の毘沙門天像、福井市大土呂町の聖観音立像、福井市半田町の毘沙門天像、福井市徳尾町の十一面観音立像（焼損）、鯖江市大正寺町の不動明王像（鯖江市指定文化財）などが現在も大切に祀られており、中世以前の隆盛を今に伝えています。



鯖江市指定文化財

木造 阿弥陀如来坐像・十一面観音坐像・聖観音坐像

鎌倉時代 片上神社

写真提供：鯖江市教育委員会



『越前国名蹟考』より文殊山之略図 当館蔵

そして本展では、文殊山麓に遺る白山信仰ゆかりの神像・仏像を紹介しています。まず福井市上河北町白山神社には、女神像を主神として東帯形の男神像や僧形神像など多数が祀られており、女神像は白山比咩神の姿を、残る男神像などが大汝や別山の神々の姿を表していると考えられます。